

令和4年度 教育事業 サイエンススクール

～君も105,000人が体験した実験に参加しよう！～



1. ねらい

ワクワク・ドキドキするような科学実験や体験、研究者とのふれあいの機会を通して子どもたちの科学に対する興味・関心を広げ、知的探求心や創造性を培う。

SDGs（持続可能な開発目標）④質の高い教育を参加者に提供するとともに、SDGsを達成しようとする子どもたちの健やかな成長を支援する。

2. 実施日

令和4年12月17日（土）～18日（日）1泊2日

3. 対象

小学校4～6年生

4. 参加者 / 募集定員

40名 / 40名

5. プログラム（要約）

近畿大学名誉教授 木村隆良氏、近畿大学工業高等専門学校教授 鈴木隆氏を講師に迎え、近畿大学学生6名とともに数多くの実験やサイエンスショーを実施した。

スケジュール

1日目

【実験】

- ・ マイナス200℃の極低温の世界を体験
- ・ 光の不思議 偏光
- ・ 空気の中身の探索
- ・ 不思議なロウソクづくり（炎色反応）

【サイエンスショー】

- ・ 魔法のメスシリンダー
- ・ 手が壁を通りぬける不思議な箱
- ・ 燃える3要素 炎色反応と黒い炎
- ・ 液体窒素、空気、酸素の不思議
- ・ 大気圧の実験 空き缶つぶし マグデブルの実験
- ・ 浮き上がるボール
- ・ 音が見える

- ・ 静電気の不思議な性質
- ・ ゴムの性質
- ・ 空気の大砲
- ・ 燃える速さ
- ・ SDGs 二酸化炭素の出ないエネルギー

2日目

【実験】

- ・ スライムとスーパーボール
- ・ ペーパークロマトグラフィーで色素を分類しよう
- ・ 色々なモーターを作ろう
- ・ 磁石の不思議

【1日目】

学生スタッフの説明や例示を参考に、4種類の実験を順に体験した。日頃、目にすることがない実験器具や実験内容に、夢中になって実験に取り組む様子が見られた。



入浴と食事を終え、夜のプログラムは、「サイエンスショー」。先生方や学生スタッフが次々と繰り出す大掛かりな実験に参加者は歓声を上げていた。



【2日目】

朝食後、約3時間に渡り、新たに4種類の科学体験をした。最後に、木村先生からのメッセージを頂き、昼食後、プログラムを終えた。

6. まとめ

2年ぶりに実現したサイエンススクールであった。参加者からは、一層理科や科学に興味をもったという声やもっと知りたくなったという声が聞かれた。「ほんもの」を見て、体験をすることの重要性を再認識した。今後、曾爾高原という立地を生かした科学体験も実現するとより濃いサイエンススクールに育つものと考えている。

（企画指導専門職 三木 智広）